

平成25年度 第2回 高砂市スポーツ推進計画検討会議

平成25年10月1日(火) 19時00分高砂市スポーツ推進計画検討会議を高砂市役所南庁舎5階大会議室において開会

出席委員	議長	森田 啓之	委員	松陰 英人
	副議長	藤原 良文	委員	佐藤 章徳
	委員	砂川健次郎	委員	山田 みえ
	委員	鎌谷 正士	委員	中村 香織
	委員	池田 政隆	委員	島本 卓
	委員	加茂 朋之		

出席事務局職員

健康文化部長	橋本 保正
健康文化部長	猪子 真一
くらしと文化室長	
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課長	東野 哲也
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課主幹	福原 裕子
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課係長	前川 吉也

協議事項

- 1 開 会
 - 2 あ い さ つ
 - 3 グループ協議 (SWOT分析)
- 議題 高砂市のスポーツの『ここがよい』『ここが気になる』
- 4 グループの成果の発表 (プレゼンテーション) とまとめ
 - 5 そ の 他
 - (1) 高砂市スポーツに関する市民アンケートについて
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - 6 閉 会

(午後 7時00分 開会)

○事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまより第2回高砂市スポーツ推進計画検討会議を開催いたします。

では、開催に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市スポーツ推進計画検討会議の運営に関する規定に基づきまして、公開とさせていただきます。

ただし、傍聴希望者は本日はおりませんので、よろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、1枚物で第2回高砂市スポーツ推進計画検討会議の次第がございます。

続きまして、委員の名簿。1枚物でございます。

次に、高砂市スポーツに関する市民アンケート結果が1ページから16ページまで。

最後に、前回、第1回の高砂市スポーツ推進計画検討会議の議事録のほうも1ページから16ページまで。

皆様、おそろいでしょうか。

それでは、次第により進行いたしますのでよろしくお願いいたします。

では、開催に当たりまして、まず議長から一言ごあいさつをお願いしたいと思います。議長、お願いいたします。

○議長

皆さん、こんばんは。ちょっと座って失礼します。

お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

私も昨日までベトナムに1週間いまして、その1週間前は東北でボランティアに出たりとかで、ばたばたの中で、今日、はせ参じた次第ですが、少し変わった発言もあるかもしれませんが、ご容赦いただきながら、今日を有意義な時間にしたいと思いますので、お疲れのところ恐縮ですが、どうかよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

では、今後の議事進行は議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○議長

それでは、お手元の次第に基づいて、早速進めたいと思います。

まず、次第のほうの5番のその他ですが、高砂市のスポーツに関する市民アンケートについて、これはグループ協議をする前に有意義な情報を得られる可能性がありますので、その説明を事務局からお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

失礼します。

調査方法といたしまして、市内在住または在勤の方でございます。

調査方法としましては、市役所本庁舎、各公民館、市内各企業10社において調査票を配布、回収いたしました。

調査期間は、平成25年6月28日から7月16日までとし、830枚を配布いたしました。

有効回答数は656枚で、回収率は79%でございます。

その男女差でございますが、12ページ、13ページで、性別、年齢、職種、地区等を詳しく書いております。

前もって資料は送付させていただいておりますが、もし何かご意見がございましたらよろしくお願いいたします。

特にございませつか。よろしいですか。

○委員

問4-3で、時間帯で、平日の早朝というのは早朝だよね。

○事務局

そうです。

○委員

問4のグラフの中で、月に一、二回というのがないのですけども、回答の選択肢にあるみたいなのですが、これはゼロだったということでしょうか。

○事務局

0だったということです。

○委員

わかりました。

○委員

すみません、調査方法で、市役所本庁舎、各公民館、市内企業ということですが、この割合はどれぐらいか、わかりますか。例えば半分以上、企業であるとか。

○事務局

各公民館、8公民館に各30部、各企業10社に50部、それと市役所は本庁内に設置しております。

○委員

ありがとうございます。

○事務局

あと、教育センターとか、商工会議所にも置かせてもらっています。

○委員

各館、8館で30部ずつなので、そこだけで240。

○委員

だから企業だけで500。

○委員

市役所で90。

○委員

会社に配って、置いたのですか。

○事務局

総務の方をお願いしてランダムに配布していただいて、回収していただいております。公民館に関しては窓口に置かせていただきまして、アンケートをお願いしました。

○委員

この有効回答数は656ですが、そのうちの割合は、いわゆる役所が何%、企業が何%、それとその他公民館とか教育センターが何%とか、その割合は大体わかりますか。役所がほとんどですとか。その割合は。

○事務局

本庁は少ないですね。企業もしくは公民館が多いです。

○委員

656人のうちの割合はどれぐらいですか。役所が100ほどですとか、企業が200ほどですとか。

○事務局

本庁の回収率が44%。

50部を置いて22の回収ですから、44%。

その他、その他を入れたら80ですね。80部で回収率が36%。

○委員

役所のほうはわずかですね。企業のほうが回答率が多いということですね。

○委員

だから、どういう人が答えているかというのは、この問いの14を見たら、大体わかる。公務員、団体職員で6%。答えている、ほとんどが会社、勤め人の方がかなり多いということかな、6割ぐらい。

○委員

ということは企業の、企業の方が59%、60%ぐらいですね。

○議長

まず、調査の対象とか方法の部分で、皆さん、まずこの調査に関して多分気になる部分が多いと思います。

今のご質問というのは、ある部分正当な、こういうちゃんとした調査の結果を得るためにはどういうふうなサンプリングをして、そしてどういう特徴の人たちなのかというのを本当に正確にやろうと思ったら、人口比率、高砂市の人口に対する年齢に応じて、市民名簿から無作為に抽出して、それでやったりするのが正当なのです。

でも、そこまでかける現実的な予算等の問題もあって、今回、担当のほうでは、1つは企業の協力を得ようとしたというふうに聞いてます。

それで、あと公民館を利用する方々ということで、そこにも置きながら、そういう意味ではかなり限定的な、限界もかなり多いというふうな読み取りをしていただけたらと一方では思います。

もう一方では、でも多分これ、どんなに精密にやっても、しょせん数字なので、それを我々自身がどういうふうに埋めるかということを考えていただけたら、あくまでも参考ということで考えていただけたらいいのかなと。実はこういうふうなやり方をされるというのは聞いてはいたのですが、現実的ないろんな制約の中でやられるというふうなことを伺ったので、私自身もそれならばね、これを研究論文にするわけでもないのに、そういう意味でそのぐらいの位置づけだと。

そういう意味で、今、伺った部分からすると、この調査対象と方法で今、言っていたのですが、問14の13ページを見ていただけたらわかるのですが、6割ぐらいの方が回答している。恐らくこれ、勤め人というのは、この依頼した10社の企業の方のご意見が6割ぐらいは入っているというふうに理解していただけたらと思いますし、恐らく私の予想ですが、多分、各公民館を利用される方というのは、一方ではいわゆる高齢者の、リタイアされた方だとか、あるいは家事手伝いの方、専業の方というふうなところあたりがあるのではなかろうかなと。

あとは、本庁舎で回収したものというのは、もうもちろんこの公務員・団体職員に該当するのではないかなというふうに読み取っていただけたらいいかなと。

恐らく、特にこの中でこの後も注視いただきたい自由記述の部分は、そういう意味で、ああ、これはどういう年齢層の人が、どういう立場の人が書いたのかなということも含めながら読んでいただけたらいいかと思います。

それで、調査の今、1ページのところですね、属性で、特にそれにかかわるのが問12の12ページ、性別。性別も多分、結果的にはこれだけ見れば大体、人口比率もこんなものなのですかね、ちょっとわかりませんが、男性、やっぱり今でもどうなんかな、高砂市の場合ちょっと状況はわかりませんが、やや男性が多いような状況の属性だということ。

年齢に関しては、比較的ばらけているのかなと。

ちょっと20代がね、こう入っていないんだなというのはちょっと気にとめておいていただけたらと思います。企業でとか、でも20代の方というのはこう、取れなかった

のだなという。意外にちょっと、ここはまた考えねばならないところ。

あと、あるいは我々のほうの中でちょっと意識を埋めなければならないところではないかとも思います。

問14、15は小学校区とか先ほどの職種ですね。私も不勉強なんですけど、大体これぐらいで平均的なのですかね、ちょっとわからないですが、地域的には。大体という感じでばらけてるかなという感じですか。

そういうふうな制約があるということを前提で、まずちょっと問1から、先ほどもう既に問4の話もちょっと出たんですが、問1から問11までを、ちょっと順番に見ていただいて、そして確認すべきことがありましたら質問していただけたらと思います。

○委員

これ、20代がゼロというのは、これは正しいのですか。18歳から19歳が11%で20代がゼロという結果なんですよ。

○事務局

そうです。

○委員

ありがとうございます。

○委員

高砂に20代、いないのかな。

○議長

たまたま取れなかったのですね。

○委員

何か結果、資料を読ませていただいたら、大体ごくごく一般的、標準的な、答えね、全般的に見せていただいたら、どこでやっているのと大体平均的な値がみんな出ているのかなという印象は持ったのですけれどね。

○議長

そうですね。

○委員

何か週に1回以上やられている、運動をやられているというのが大体70%近くおられるというのね、66%ぐらいになるのかな。

○議長

そうですね。

○委員

59だから66%ぐらい。

○議長

これは一般的に。

○委員

割と優秀なのと違うかなという。

○議長

この対象者の現状を踏まえたら当然かとも思うんですが。

○委員

7割近くの人が週1回以上必ず運動しているから、かなり世間一般的には優秀なほうですね。

○議長

優秀です。

○委員

この対象がそうだと。

○議長

そうですね。対象が恐らく会社の、企業にお勤めの方ということで。

○委員

出かけておられる方に。

○議長

そうですね。

実際、今、日本の目標値は大体少なくとも、押しなべて2人に1人が週に1回は、ぐらいのところに何とか持っていきたいと。

それがいけそうで、6割というふうなことはよくいってますが、この今回の調査対象の方々は正直、相当、週2回、そして週に3回やってる人が22%もいるという、すごい。

逆にじゃあこれ、そういう観点で読んでいただいたら、どんな場でやってるのかなということですね。

あるいはどんな中身をやってるのかなというふうなことを考えると、やはりウォーキングが多いなということですね。

ゴルフは恐らく打ちっ放しに行ったり、コースに行ったりされているのだろうなど。

やはりウォーキング、ジョギングという個人的なもの、これも今、全国的な傾向です。ここの種目でウォーキング、ジョギングという個人でやる分はすごく多く出ています。どこの地域でもそうなんです。

それに対して、いわゆる種目で、こう対人でやったり、あるいは複数の人間でやるようなものというのは比較的少ないというふうな傾向ですね。

それで、グラウンドゴルフは、高砂の状況は、ちょっと私も不勉強なんですけど、今は高齢者の必要アイテムというぐらい、ゲートボールにまさる勢いなんですけど、今回の対象の方々のところにはそんなになく、恐らくウォーキングのところに多くの方が高齢者の方もいってるのではないかなと思います。

あと、市としてよくこう推進したりしている種目、そういうものがあれば、多分スーパーライブというのもしかたかそうですね。今8人ですかね、今回の対象の中ではですね。あるいは陸上競技、熱心にやられているとか、そのほかこんなふうな状況かなというふうに問4のあたりは読んでいただけたらと思います。

ごめんなさい、先ほど問4-3は、質問をいただいたのは、何でしたか。

○委員

この早朝というのは何時を早朝と思ったんです。

○議長

なるほど。これは恐らく仕事が始まるまでとか。

これはどうですかね、多分そこをみんなある程度解釈して、時間は書いてないんですね、調査票に。

○委員

スポーツクラブ21はどっちかと言うと、日曜日の、それこそまさに早朝です、8時から9時半までやってる、太極拳。

○議長

なるほどね。

○委員

大体、太極拳というのは割と朝ですね。

○委員

私のイメージは6時、7時までが早朝という感じに思ったので、8時はもう早朝とは解釈してないので、そのあたりはどうなのかなと。書いた人がどんな方か。

- 議長
そうですね。
- 委員
うちはそうやって8時からやっています。
- 委員
ここに休日の午前中とあるでしょう。その辺が8時から9時半とかだと私はもう午前中という解釈なんです。
- 議長
そうですね。多分これも予想でしかないんですが、恐らく仕事に行かれる前とか、学校に行く前とかというふうなイメージかなとは。そうですね。
- 委員
朝早く歩いておられる方、多いですね。7時前ぐらい。
- 議長
はい、そうですね。太陽が上がるまで、ちょっと暑くなる前とかね、というふうなイメージかなとは。はい、そうですね。
あと、大体一般的なところですかね。
あとは、問6ですかね、少し見ていただくのは、これはって言うと、高砂市、体育協会、体育館が行う行事、教室にかかわったことがあるかというふうなことです。その部分についてはこれ、ちょっと見ていただいておいたらと思いますですね。参加した方が2割、しなかった人、あったこと自体を知らなかったとか、そのあたりですね。
- 委員
これは大きいですよ、4分の3の方が大体、参加しなかったとか知らなかったという話ですからね。4分の1の人しか。
- 委員
これは企業の人だろう。企業の人には知らない。
- 議長
そうですか。
- 委員
企業でも、市外から通われている方が大分含まれていますので、そのあたりは広報が行き届いてない。
- 委員
だからこういう結果になっている。
- 議長
そうですね。市外の方はかなり入っていますもんね。
- 委員
市外がたくさんいるから。
- 議長
あとは、問7も大体どういうものに参加したいですかという、7ページですね、もとの設定自体がね、もうこういうふうなパターンで聞きましたら大体こんな傾向です。健康というキーワードとかね。
- 委員
議長、参加したいと思わないというのが多いのはなぜなんですか。多いように、私は感じたのですけれど。
- 議長
正直なところ、やっぱり全然興味がないよという方が多いというのも現実。これは子どもも二極化っていいですけど、大人も、正直なところ二極化って言うていいと思いま

すね。

○委員

ほかの市でもこんな感じなのでしょうか。

○議長

そうですね。この表現ではないですが、やはり特に希望はない、今後もするつもりはあまりないですというふうな回答は、結構な量がありますね。

○委員

この、ぜひ参加したいと思うとか、思わないとか、年齢層が知りたいかなと思いますね。

○議長

そうですね。はい。

○委員

仕事している人は出れない。

○議長

これ、恐らくちよっところクロスで、今見ていただいた年齢層とか、性別とか、そのあたりをクロスで見てみたらもうちよっと違うかなと。より詳しいところが出てくるのかなという気は。

あと、問5です。6ページ。ここともかかわるのですが、参加したいとさえ思わないというのは、多分忙しくて時間がないという人も結構入ってるし、あとスポーツや運動は嫌い、苦手という人も入っています。

多分その両方が恐らくかかわってきているのだろうかなと思うんですが、結論的にはそのあたりがもう少し可能であれば見ていただけたら、分析していただけたらいいかなというふうには私も思います。

それで、あと7ページにまた戻りまして、クラブとか、いわゆる集団で運動をしていますかという質問ですね。

これも先ほどのウォーキング、ジョギングをしていますということと絡むのですが、入っていないし、これからも入るつもりはないと。結構なこの割合の運動をしている人がいる中で、その半分は、どうぞ私は個人でやっていますよと。あるいはやりませんよも含めてですが、結構これ、割合、やっぱり半分以上が個人で好きにやりますよというふうな回答になっているということも注意すべき点かと思えます。

あとは、そう、問8-2、このスポーツクラブ21という存在も、もう周知されているわけですが、やはり一番多いのは、どのような性格のクラブですかというのは自分たちで好きな人が集まってこう、わいわいとやっているクラブという、小さな1単位のクラブというのがやはり結構。

恐らく民間のスポーツ施設のクラブにというのは、企業にお勤めの方だろうと思うのですが、そういうところのフィットネス関係に多分行ってたりするというふうなことではないかなと。

無回答というのは、多分、そもそも入っていない人は書いてないはずなんですけど、ちよっ私ともわかりません。なぜこんなに無回答が多いのか。加入しているクラブはどんなのですかって言えば、その他になればその他にすればいいのに、無回答がこれだけ多いのはちよっ残念なことなんですけど、そういうふうな制約もあることも知っておいていただいた上で、それで問8-3、9ページです。どんな種目を集まってやっていますかという質問では、卓球がこの中では非常に多い。どういうふうな形なのか、個人ね、今日はお休みですが、水王さんが卓球のほうを熱心にお世話されてるというのは聞いていますが、そういうふうな関係なのか、あるいはこれ、スポーツクラブ21等で、やっていたり、あるいは会社でこう、あき時間でとか、よく会社でサークルをつくってるとい

うのも一般的にはありますので、そのあたりも出ているのかもしれないなど。ここでやっぱり種目的には、グラウンドゴルフはやはり集団としてはやっている率というのは高い。

意外にウォーキングも複数で集まってやっているんだなという感じは読み取れるかなというふうな、あとは大体いろんなものが出ていると。

会費設定については、大体恐らく月に3,000円以上を払ってるのはもう間違いなく民間ですね。はい。そんなところかとお理解いただいて、月1,000円程度。それでもこれは結構な、スポーツクラブ21はこちら大体どれくらいですか。

○委員

月、200円ですね。

○議長

ですよ。

そういう意味では、多分1,000円未満に入っていると思います。もしやられてたらですね。

意外に結構1,000円から2,999円、3,000円未満のところが多いなと思いつつながら、1つの種目を少しやるぐらいだったら、でも多分これも民間なのかなという気がします。

会費負担についても、ここはいつもスポーツクラブの議論になりますが、中身によってどれくらい負担というのは多分違ってくるかなと。あとその人の経済状況も含めて、こんなふうな現状だというふうな受け取っていただけたらと。

あと、問9ですが、高砂のどこでやったかという施設ですね。10ページは市の公共施設を多く利用されているということ。

あとは、これは多分、ゴルフという回答が非常に多かったのも、恐らくこれはゴルフ場などの打ちっ放しとか、ゴルフの専門の施設だと思います。

行っていない人というのは、本当は一番下に整理すればいいのですが、そういう方は書いていないということですね。

問10、スポーツ、どんなものかというのは、もう見ていただいたら上位に来るのは大体、健康志向のものがやはり多いという。

なおかつ、大体、主に個人でこう、やっていくようなものになろうかなと思いますね。その中で唯一対人的なと言えば、卓球がね。これは多くのところで、多くの自治体でこの卓球というのはいろんな意味で高齢者にとってもいいというふうなことで、気軽に運動調節できるなんていうことも含めて、結構やっぱり出てきているところはやはりここ、高砂市でも同じかなとも思います。

最後、問11は、小・中学校の学校体育施設の利用をしたことがあるということは、こういうふうな現状だというふうにご理解いただいたらと思います。

ちょっとざっと私のほうで流しながら説明を補足したんですが、皆さんのほうから何か、この部分はもうちょっとどういうふうに解釈すればいいかなみたいなことはありますでしょうか。いかがでしょうか。

14、15ページで、ちょっと注目すべきものみたいなものが個人的にでもありましたら、言っていただいたらみんなで確認を。それぞれ読んでいただいていると思うのですが、今日の作業をする上で全員で共有しておけたらいいなみたいなのがありましたら、ご指摘いただけたらと思います。

○委員

ちょっとよろしいですか。

○議長

どうぞ。

○委員

4番目、最初の、その14ページの4番目の、素人が始めるにはちょっと大変という話があるんですけど、経験者も1回やめたものを再開するのは多分大変だと思うという問題が多分別にあって、それぞれが・・何か分けて考えたほうがいいのかなという気がしますね。経験者を再開させる方法、素人がまた新しく始める方法は何か別な気がするので、この意見を読んで、ちょっとそういうことを思いました。

○議長

はい。

○委員

私どもでちょっと気になったのは、この高砂市民の人はダンスの場合、1箇所の公民館しか利用できないというのは今どきおかしいと書いてある。これはどういうことなのか、ちょっと理解しにくかったのですけども。

○議長

事務局のほうでわかりますか。

○事務局

この1箇所というのがちょっとよくわからないですけども、ダンスに関しましては総合体育館のほうでも何教室かやってるとは思うんですけども、ちょっとまだ周知不足かなということ。

○委員

別に曜日が違ったらあちこち行ってもいいのでしょうかね。

○事務局

はい。

○委員

ダンスの種類がいろいろあると思うんですけど、これ多分、社交ダンスみたいなことを書いてるのと違うかなと、私は見ました。施設でフロアに傷がつくからお断りとかというのを聞いたことがあります。そういうことと違うかなと解釈したのですけどね、勝手に。

○議長

なるほど。

○委員

競技ダンスみたいなものですか。

○議長

2人でやる。

○委員

社交ダンス、競技ダンスやね。

○委員

か、それに近い。ちょっと詳しくないので、わかりませんが、この辺。

○議長

なるほど。これは一般論なんですけど、施設のね、フロアの問題とかかわって、例えば、ご存じかもしれませんが、例えば車椅子を使ったあの運動なんかも、体育館、ほかの自治体などではそれを、電動車椅子とかも含めて、傷がつくので、ちょっと制限をかけてるところなどもあったりします。

だから、障がいを持った人は遠くへすぐ移動をしないと、集まらねばならないなんていうところも一般の、多分そのね、もしかしたら社交ダンスもフロアでステップを革靴とかで踏むので、こんなふうな意見が出ているのかもしれないとね。

○委員

1箇所というのは、これはどこのこと。

○事務局

中央公民館。

○委員

中央公民館だけを指しているなら、一部の人ですね。

○議長

結構、卓球の施設とか時間に関する事、あとトレーニング、施設的なこと、あとネット予約の話とか、そんなふうなことが書かれてあるなと思います。

○委員

体育館の予約はネットでできるんですよ。

○事務局

ネットでできます。

○議長

これはその方の認識がちょっとということですかね。

○委員

インターネットで取れるようになってます。

○委員

一般の方の意見として、15ページの下から5行目、スポーツに積極的に取り組もうとしてない私には、どこでどんなスポーツが開催されているか、情報が入ってこないというのが本当にもうあらわしてるなと思いますね。やろうとしてる人ってやっぱり情報を取ろうとするので、目も行くと思いますけども、やっぱりやりたいけど機会もなく、勇気もなくという人には、なかなか情報も入ってきにくいんだと思うのです。こちらに何か解決の鍵があるかなと、一般の方がたくさん参加できる。

○議長

そうですね。

○委員

情報発信してあげるということですね。

○委員

よろしいですか。

○議長

はい。

○委員

税金を使うなという意見が1つあるのですが、この声は大きいのですか、それとも1人が言ってるだけ。

○議長

下から2番目もそうですね。余り行政が積極的にするものではないというのは、スポーツの推進をですね。それよりもっとほかに多分使うことがこのご時世、あるんじゃないのって。多いかどうかはわからないけど、これは一般的な、今日もこの後、多分皆さんも十分こう認識はあると思うのですが、世の中のこう一方の時勢として、流れとして、趣味事に自治体がお金を投入することに対するコスト削減というのは、一方ではある。だから文化事業とかスポーツ事業というふうなものは、経費的には現実にはコスト削減というのはもう出ていますよね、高砂市でも。実際には。

使うなという意見があると同時に、もう自治体のほうも、もうそういうふうなことにならざるを得ないというのは、もうまぎれもない事実と認識いただいていいかと思います。

一方で、でも今度は健康というキーワードを出せば医療費の問題だとか、そういうふ

うなもの削減への期待があるので、スポーツとか運動というのは一方でコスト削減と言いながら、その文言を1つ出しながら、こう、うまくですかね、やっているというのがもうこれ、現状だと思います。

文化連盟などにもかかわるのですが、文化連盟のほうでは、確かに生きがいではなるのですが、実際に音楽を聞いてこう、いろんな美術的なことをして、身体的な健康というふうなところに結びつきにくいので、スポーツよりかはまださらにしんどい状況が今、起こっていることも他市町ではあるかなと。そのあたり、高砂市ではどうなのかは、このあたりもう少しこの後の作業で細かく確認をしていただけたらと思います。

今、言っていた税金を使うとか、上のほうにも、個人の趣味に税金を使わないようにしてほしいって結構ね、ありますね。

○事務局

すみません、これはご意見がございましたらということで、最後に空白をつけているところに、書いていただいた方、全員の分をここに載せてます。

○議長

はい、了解してます。

○委員

これを、ずっと読んでますと、スポーツをするのが何か人任せというふうな感じですね。自分のことなのに、こうしてほしい、ああしてほしい、もうそういうことばかり書いて、自分がしようとしてない。誰のために一体するんだという。

○議長

これはもう至るところで指摘されているところなのですよ。多分ここに集まった方々は絶対そんな意識はないのですが、今、全てこう我々の市民としての生活の仕方も含めて、行政にとか、どこかにお任せみたいところがスポーツにも顕著に出ている。

○委員

してもらって当たり前やね。

○議長

そうですね。はい。

○委員

スポーツにかかわらず、全般ですよ。

○委員

そういうことですね。

○委員

高砂市は無料で使える、無料でしてもらえるのが当たり前。受益者負担ということを考えていない。今までただで使わせておいて、何で今さらになって金を払わないとあかんのと。

○議長

どちらかと言うと、都市部の高砂市でもそうですか。

○委員

そう。

○議長

というのは、今ちょっと聞いてね、正直、ちょっと驚く部分ですけど、これが田舎に行けば行くほど、もっとその状況は深刻化しています。

でも、一方では田舎は地縁関係があるので、そこが何とか歯どめにもなっていることも事実なのですね。人任せなのだけど、何か自分の役は嫌でも回ってくるでしょう、田舎は人が少ないので。

都市部はそうじゃなくて、人任せで何とか済むんです。

そこがまた、本当に人任せのまんまで回ってしまうというところも問題かとも思います。

そうしましたら、またこの後、作業の内容にもかかわるので参照いただきたいんですが、続きまして、いろいろいただいた貴重な意見、を踏まえて、このグループ協議のところ、ちょっと行かせていただきたいと思います。

それで、会議をして1個1個意見を出すよりも、お互いが見ているそれぞれの部分的なところを少しでも共有して、そして次回にもう少し具体的ないろんな中身が出ればいかなと思って、あえて協議と、グループワークみたいなことをさせていただくように事務局と決定しました。そういう意味では、会議ではないので、もうざっくばらんに今から、数十分の間、やっていただけたらと思います。

それで、次第のほうには高砂市のスポーツのここがいい、ここが気になるって書いてます。

やり方というのは、このここがよい、ここが気になるというのをいせ、いせでもオーケーなんですけど、少し施策とか、策を出すときによくやるSWOT分析をやってみればと思います。

ちなみに、多分会社とか、いろんな団体でこれをやられたことがある方はいらっやいます。いいですか。はい。

事前にウィキペディアの印刷を事務局からいただいたのですが、多分これを読んでも何のことか、恐らくやってなかったらわからないのではないかなと思います。

それで、ちょっと簡単に四、五分、説明だけさせてもらって、それでこの方向で意見をどんどんこう思い、心で見えてるところでいいので出してくださいという時間をつくりたいと思います。

2グループに基本的には分かれていただくので、その後は次第の4にもありますが、お互いのグループで出たところを、これをちょっと共有するためのプレゼンテーションを簡単にさせていただいて、それで今日は、全体を終わりというふうに。

次回、その中身も踏まえながら、少しこう、高砂市の具体的な課題みたいなことを。取り組むべき方向性みたいなことが出せていけたらと思います。

では、ここにキーワードがまずウィキペディアのところにもありますが、強み・弱み、機会・脅威ってあると思います。

この後、模造紙でいろいろやっていただくのですが、こんなふうに理解してください。

私も実はまちづくりの計画をつくるときに、委員としてコンサルのところと一緒にやらせてもらったのですが、何かある課題をするときに具体的な策を出すためのやり方なのです。

それで、内部環境というのは自分たちの、この高砂市の、いわゆるスポーツ環境だと思ってください。

この環境というのは、当然よく人、物、金、情報ってよくいうんですが、大体4つ経営を、運営をしていくものが、高砂市の中にある、実際の人間、そこで動いてる人間とか指導者とか、あと受講者とか、市民とかというふうなスポーツにかかわる。施設のことだとか、あと予算だとか、情報だとか、そんなふうなことが内部環境と思ってください。

こっちは、外部は高砂市のスポーツというのが基本的には内部なので、をめぐる外の状況と言えいいかと思いますが、環境を広く、例えばスポーツにかかわっている人以外の意識がどうなのかとか、あるいはさっきも出ましたが、世の中がどうなのか。子どもが例えばすごく減っているとか、これは高砂市の中だけでもそうですし、一般でもそうですけど、あるいは高齢者が非常に多くなってる、ひとり暮らしが多くなってるとか、そういうふうな部分がこの外部環境と思ってください。

それで、何かするとき基本的には自分たちのこのスポーツ環境を考えたら、強み、いいところ、わかりやすく言えば。の部分と、それとやっぱり弱点みたいなところ。必ず持っているよと。

ここをまず今日、はっきりしていただきたい。ここって高砂市のスポーツの環境で強み、いわば、ほかに対して誇れるところ。

ちょっと今後も課題だし、弱いなとかというふうな部分というのが弱みと思ってください。

もう1つは、機会と脅威ってそこに書いてますが、スポーツをこう、よくしていく上で、これもわかりやすく言えば、追い風になっていることが機会と思ってください。スポーツを推進していこうという上で追い風になっている外の何かこう、声だとか状況。

こっちは、脅威というのは向かい風になっていることが脅威というふうに思っていたいて、基本的な方向性は高砂市のスポーツをより推進していくことです。ここに向けて、上で、例えばですが、これが会社だったら脅威というのは、今度ね、会社で何かイベントを打ったり、あるいは商品をつくる時に脅威というのは最近似たような会社が自分の地域にできてきたみたいだね、今までどおりの商品ではだめで、似たようなところが出てきたというのは脅威になりますし、追い風というのは、自分たちの会社が何かつくっているものが世界的に今、注目されているとか、そんなのが追い風の部分です。

そういう意味では、ここの部分、ここの部分をどんなふうに捉えていくかによって、強みをうまく生かしながら、追い風もうまく利用して、ここは結局このクロスが出てくるので、何か具体の策が出てきたらいいなというのがこのマトリックスなんです。

こっちもね、弱みなんだけど、弱点、今のところは余りやってないけど、世の中が追い風なので、あえてそこをまた、何かやればいいなと。ここも同じように、向かい風なんだけど、あえて高砂市はそこも向かい風なんだけど、ここの今までの強みをずっとやっぱりここは曲げないで、撤退するんじゃなくて強くまだいこうよという具体策のところです。

ここはそういう意味では一番大事ですよ。なかなか難しいですが、弱い部分で、なおかつ向かい風で、ここはちょっと微妙なんですけども、何かスポーツを一生懸命やろうって。だけど世の中がその方向、あるスポーツのところって高砂市自体がちょっと弱点かな、弱いなって。でも世間も、そんなところをやる必要はないやんとかって言うたら、ここは具体策、ちょっと出づらいいんですけどね。あるかどうか。

でも、こんなふうにして4つの方向から少しでも何か出てこないかなと。

結果的には、出てきた中身というのは基本いろんな書物とか、皆さんがこう何となくイメージしていることに行き着く可能性はあるのですが、この作業をする中で一番意識してほしいのは、まずここをお互いがどう理解するかなのです。

これはつまり自分たちの地域の把握になります。ここが多分豊かであればあるほどここの部分の優先順位とかもこう変わってくるかなと。

今日のデータ、自由記述にもそのあたりのヒントがこう出てるなと思いつき拝見したんですが、高砂市がこれまでやってきて強みとして誇れるスポーツに対するあること、それをまた継続的に続けていきたいと思いますというふうな策。それは何なのか。弱い部分は何なのかというあたりをちょっと、それぞれの見えてるところで構いません、ある方は地域のスポーツクラブ21の中で活動してる中で何かこう感じるものがあるかもしれないし、一般に利用者としてかかわってる方が見える部分と。あるいは学校の先生としてかかわって見ている中で、子どもを見ていて感じる部分とか、いろいろあると思うので、まずは今日はここの部分を個人でこの後、分けていっていただいて、とにかくたくさん出していただきたいです。ポストイットをお配りするので、1枚のポストイットに大きくでいいので、短文かキーワードで大きく書いていただいて、そして張って

いただくような形で、ここはもう今日は多分無理に出さなくて構いませんので、この部分を少しくね。

多分ここについては、世の中がどうだというのはまた人によっても見え方、あるいはいろいろあると思うので、出せたらいいです。特にこっちの、内部としての高砂市のスポーツ推進の体制だとか環境ということについてを中心に、この赤丸のところを出していただけたらと思います。

とりあえず、このスケールだけつくっていただいて、もうこの枠を大きいですね。やっていただけたらと思います。はい、すみません。

時間もないので、早速いきたいと思います。何か質問はありますか。その都度こう。はい、どうぞ。

○委員

ここにもありますけど、強みと機会を混同しないというのがあるんですけど、自分、どっちかがわからないことがあるので、とりあえず書いてみて、後で分類したらよいということですね。

○議長

そうですね。

ある人は、これ、強みと弱みを見方によってはこれが強みという人もいるけど、それは弱みでしょうということもあります。

なので、それはもうそこでは一応お互いの調整をする必要はないので、見えてるところの状態として、それぞれ同じ文言がここにあってもいいしね、構いませんので、こっちにあたりとか、それは気にせず。

とりあえずこの観点に至る、ここから自分が言おうとしてるところというのをこう、はめてもらったらと思います。お願いします。

それでは、グループに分かれて早速やりますので。

では、すみません、事務局のほうで2グループをつくってもらってますので、協力いただいて移動をしていただけたらと思います。

時間のほうですが、もう2時間を絶対超えないようにしたいと思いますので、もうちょっとしゃべり過ぎなんですけど、もう約30分で、最大でも。

終わったら5分程度でプレゼンをお互いにして、今日は締めたいと思います。よろしくお願いします。

(Aグループ会議開始)

○議長

書き方なのですが、例えば弱みとしてですけど、スポーツ少年団で活動している子どもたちが年々減っているとか、できるだけ一般論ではなくて、具体的に書いていただけたらと思います。

ポストイットを配るので、そこにもうどこに張れるかは関係なく、もう一般的にいいところが誇れるな、どうも気になるなというのをどんどん、まずポストイットに書いていただけますか。

○委員

すみません、この1枚につき1個だけですか。

○議長

はい。1つに1個だけ書いてください。(作業中の会話あり)

そしたら、あと10分ぐらいでちょっとそれぞれ張っていただいて、それで確認する作業をお願いします。(作業中の会話あり)

そしたら、ちょっとこちらのほうも、一応張り終わったら、ちょっと集合していただ

いて、それでお互い簡単に説明を各自、していただけたらと思います。

○委員

強みはたくさんあるなと思います。高砂市の自然環境は、まだまだ豊かだと思います。指導ボランティアの活用、スポーツ関係もたくさん登録してあるのですが、なかなか活用がないと。今のところはちょっと、わかりませんが。そして、スポーツ団体も多くあるし、スポーツに関心が高い町であるなと思っております。

逆に、弱みですけども、市の財政のほうも見通しが暗いというふうなことで、なかなか先ほどの自由記入の欄に書いてあったような要望などもなかなかできない現状もあつたりすると思います。

子どもの数もやっぱり減ってきているのは確かで、中学校などでもクラスが減少している学校、多く出てきてます。

やっぱり高砂市、どこも一緒だと思うんですけども、余り自分のお金は使いたくない、何とかしてほしいと。自分の望むものを何とかしてほしいなというようなことがありました。

それと、今、私、学校にいるんですけども、学校施設も週7日ありまして、体育館であるとか運動場の施設ですけども、もう既存の団体が固定化してしまっていて新規参入が難しい状況で、その入れ替えとか、うまく使い分けができたならもうちょっとスポーツの活動も盛んになるのではないかなと思っております。

外部環境の要因で、今オリンピックの招致が決まって、それは大変追い風になってくるだろうと。これからますます報道もいろんな特集を組んだりしながら、スポーツに関心が高まるであろうと思います。

逆に、先ほど市の財産のことも言ったんですけども、まだまだ世間一般の方にするとう経済状況がどうなるかと不安視をしてるのが現実だと思います。

以上です。

○委員

赤で書いたのは僕ですけども、いろいろ先ほど言ったような、東京オリンピック、これが追い風になるなと思います。

それで、また兵庫県のほうでワールドマスターズゲームズを誘致しようとか関西のほうへ誘致しようということで、恐らく神戸地域、その辺が開催地域になってくると思います。

そういうことで、身体障がい者の方々にそういう環境が与えられていくというような方向になっていくのではないかなというふうに思います。

高砂市の場合で言えば、いわゆる競技スポーツでの指導者が割と多くいます。

というのは、その中でも柔道というのがこの兵庫県下でもトップクラスじゃないかなというふうに思いますし、そしてまた陸上、これもいわゆる小学生、いわゆるリレーカーニバルに出れば必ずトップクラスを押さえていると。だけど、ここでちょっと弱みを書いたんですけども、いわゆる小、中、高と、いわゆる高砂市で小学校、中学校、一生懸命やっても高校での受け皿というものが、一貫した指導者がいないというのが現状であるというふうに思いました。そのあたりがきちっとできたらなというふうな希望もあります。

それと、強みのほう、スポーツ理解者、協力者、そしてまたこの高砂市という地域、いわゆる祭り行事なども、物すごく盛んな地域であり、結局、子どもを育てるという上下関係、そういう育ちという関係が物すごく強い部分があるというのが、高砂ということですから、優秀な選手も出てくる。陸上についても駅伝ランナー、箱根駅伝を走った子がたくさんいます。

そういう環境が高砂にはあるのではないかな。

弱みとしましては、先ほど言った、小、中、高、一貫した・・・遠いところへ行かないといけない、日帰りできない、駅伝に入る人は西脇工業へ行かないことには仕方ないと。地元で走るといって、走る学校がないというような現状であります。

それと、今、私はスポーツクラブ21高砂市推進委員会委員長という形でもう十何年が経過してるわけですけど、各地域でのお世話をする人、指導に当たってくれる人、運営に携わってくれる人、そういう人が、お世話をする人が少ない。

そして、他市町とも一緒ですけども、だんだん高齢社会になってきてお年寄りの人が多くいると。そういう高齢者の人たちに運動する、ジョギングとかウォーキングとかというような部分で、そういう企画もして高砂市を活性化したい。

それと、この前も小学校の校長先生とも話したのですが、やっぱり市民レクリエーション大会というような形で、結局、小さい子どもから高齢者の人、そしてまた身体障がい者の人も含めてね、いわゆるこんな活動をしてますよという、そういう一堂に会したスポーツレクリエーション大会というようなことを年に一遍やってもらったらというような、そんな希望もあります。

そういうところも高砂市が受け皿として受けられるのではないかなというような感じですか。

○議長

ちょっと一度ざっと1回みんなそれぞれの意図を共有してください。簡潔に。

○委員

強みはやっぱり高砂市って言ったら、皆さんおっしゃいましたけど、全国レベルで活躍されている、競技スポーツなんかとても盛んであるということ。

それから、今ブームになっているマラソンにしても河川敷がありますし、それから登山にしても低山ではありますが高御位があるので、いろんなところから来られているので、そういう環境はすごく整っていると思うんですね。

その一方で、やっぱり一番スポーツをやっているのは何が多いかと言ったら、ウォーキングというのが一番多かったんですけど、やっぱり、スポーツにお金をかけたくないという人がすごく多くて、市のほうでも何でも行事が無料化していることがすごく多いので、無料なら参加するというに甘えてしまって、お金を払うということをやったり自分がやることに対しての対価というものをもう少し考えていかないといけないので、市のほうでも財政が苦しいのであれば、お金を取ってでも人を集められるような内容のものをやっぱり催ししていただきたいなというのがすごくあるのと、やっぱり予防医学、これから高齢化社会であるし、高砂でも高齢化がすごく進んでますので、予防医学ということで、病院のほうと連携して何かできないかなというのをすごく思ってるんですね。

以上です。

○委員

弱み、強みと言うと、中学校もハンドボールをやったのですが、やっぱりハンドボール、柔道、いろんな陸上であったりとか、そういうのも指導者に恵まれてるところはすごく自分でも強みというところで感じていましたし、本当に県外に行っても、そういう出会った先生方、指導者の方との出会いというのも大きかったというところも強みに今現在もなってるのかなというふうに思ってます。

その反面に、弱みというところは、いい指導者さんに指導されたとき、年代というのはすごく礼儀作法であったり体力面であったり、自分の体のことなどもすごく知ってると思うんですけども、今現在、指導後継者というか、若い世代の指導者がどうしてもスポーツをやって燃え尽き症候群ですかね、スポーツをやったらもう自分離れてしまうというような、でも教育者になってもやらないというような、燃え尽き症候群という感じ

はちょっと見受けられるのかなというところで、指導者後継者の不足というか、そういったところにちょっと弱みがあるかなというふうに思いました。

それと、あと脅威的なところというところでは、どうしても情報の発信をできる場所というところが、どうしても自分たちも行かないというところもあると思うんですけども、その場所を貸してくれる、掲示板を貸してくれるであったりとか、店先であったりとか、そういったところでの、そういう広告を張るという宣伝活動にもちょっと力が入ってこなくなってきたのかなという現状です。僕が学生のときとかはそういうところもいろんなところが近隣でも貸してくれたりもしてたので、そういったところで目にする機会がすごく減ってきてしまっているというのがあるのかなというふうに思いました。

以上です。

○委員

まず小学生が減っているということ、団員も減ってきているという弱みがあります。

それと、施設が古くなってきてると。野球場、陸上競技場、予算的な面、環境的な面がある。

それから、野球場のスコアボードが手書きとかということ非常に大変であると。利用しにくいということもあるんですけども、片や同じ手書きということ非常に珍しいと。味わい深いと。ほかはないという、こうプラスマイナスの要素もあるかなと。

それと、小学生で、もうゲームばかりして外へ出ないというような状況で、なかなか昔みたいに近所の子と遊ばないという状況がある中で、その中でも低学年で募集したら運動の基礎を学びたいという子どもはいると。お金を出してでも学びたいということで、そしたらそういう子も年々ふえてきてるし、親もいるという、そういう下地を持った人たちも中には多いというようなことが言えます。

それと、ここの例えば、この高砂の施設の中でナイター施設、陸上競技場にしてもサブグラウンドにしても野球場にしても、総合運動場の中でナイター施設があれば働いた後でも運動しようという人はここへ集まってできるのかなということで、そういうものがないということがマイナスかなと思うのと、それと1つ後で書いたのが、市の予算が少ないということで、高砂マラソン、加古川に比べて非常に予算が少ないと、小規模という反面、私が感じるのは、高砂マラソンで非常に手づくり感があると。どこか業者に任せて、金を出して任せてするんじゃないし、それぞれがこう協力してやろうという感覚があると。これは高砂市として大事にしていけないといけないかなということがあります。

それと、ちょっとマイナス面として、企業の協力というのが何かちょっと高砂市の大きな企業、何社かありますが、その企業が高砂市のスポーツの振興にもう1つ協力的でないのと違うかなというような気がするということ。

もう1つ、プラス要素として、高砂ブランド、これがスポーツにどう関係があるかということは直接まだ僕も理解はしてないんですけども、ある人に言われたのは、住んでいる人以上に高砂ブランドはありますよと。高砂に住んでいる人はそう思わないかもわからないですけども、高砂は住んでみたい町だというふうに外から見たら思いますよと。いうところをこうプラス面として大事にしながら、こうスポーツ強化も図るということも言えるのと違うかなというところをちょっと今、思いつくままで書いていました。

○事務局

まず、私が高砂市のスポーツについて考えたとき、まず、オリンピック選手がいるということが頭に浮かびました。偉大な人が出てくるということは、やはり指導者とか、何か魅力的なものがあるからではないかと感じています。競技によって違うのですが、そういう人が生まれる環境にある、恵まれたところなのかなと思います。

また、役所の人間なので、問題点として施設の老朽化ということも、もちろん考えていますし、先程、イベントの情報が十分に伝わっていないとの意見がありました。今はネット社会なので、フェイスブックもこの間から始めていますし、今後、ホームページとか、若い人たちに訴えられる方法があると思います。そこを強化すればイベントを知らないというようなアンケート結果が出てこなくなるのでは。それに、対象は高砂市民だけじゃないという意見もありましたが、ネットを活用すれば、もっと全国的に広報できるのではないかと思います。

あと、これは個人的、高砂市民としてなのですが、子どもが小さいときによくスポーツ施設へ連れて行ったのですが、高砂市内の施設で予約しようと思っても割と予約が詰まっていて、テニスや卓球をしたくても個人的に使えないことがありました。それはマイナス面だと思っていましたが、ではどこでスポーツをしていたかと言うと、加古川、姫路など、身近なところの施設を利用していました。別に市内の施設が古いとか、数がなくても、近くでスポーツをやれる施設がある地域だと思います。施設利用をもっと広域で考えれば、いろんな施設があるし、例えば、高砂市は温水プールがないですが、姫路や加古川にはあって、そういう施設をうまく利用していくことも考えるべきかと思っています。

以上です。

○事務局

どうしても僕らは仕事の考えに陥ってしまうので、強みか弱みかわからないようなところを考えてしまって、まずはお金の問題、それと施設の問題もあるわけで。今思ったのは、特に競技スポーツの場合、場所がない。先ほど言ってたけど、一定の団体、ずっとしているところはしているけど、なかなか新たにしようとしたときになかなか場所が見つからないと。

それと、施設の部分もあります。

それと、あと継続していくには必ずお金が必要などきって今、言われてたのですが、その部分で経費的なものをどうするのか、やられてる方自身がどう考えていくかというのが1つ。

それと、今、競技としてのスポーツと楽しむスポーツと、そこの部分をどう考えるか。競うことを主にしてやるのと楽しむこと、健康づくりということと、そこをどうやっていくかということが1つちょっと僕自身考えていることです。

それから、今一番思っているのは、高齢社会化してきて、高齢者はいろいろやられてるから当然、競技とかそういう部分にしても激しいスポーツなどないと思うね。だから今ニュースポーツなど高齢者に対してスポーツをどう考えるかという健康づくり、少子化で子どもさんがやっぱり減ってきてるとい、だからそのあたりをどう考えていけばいいのかなという感じが受けたので、そういうことを書きました。

以上です。

○議長

恐らくこの作業をされて、向こうでもですけど、多分、人によって例えば指導者が多いという部分があるけど、いや、でも後継者が十分育ってないという弱みの見方もできるし、ある種目によっては全然いないよとかね、スポーツクラブ21での指導者はいないよとか、かなりいろんな場面で一言で指導者って言っても違うということが1つあると思います。

それと、もう一方では、自分が多分こう見えてないところ、ああ、こういうのもあるなというふうなところ。

そんなことが幾つか出てきたのではないかなと。

先ほど最初に言ってたような、結局人任せでというふうなところになぜなっちゃうの

かというのは、結局ここ、例えばここなら、施設が老朽化してる。これはもう厳然たる事実なんです。

それで、じゃあこれをそのまま解決しようと思ったら市に要求する。

でも、もう冷静に考えて、どう考えても今、箱物はもう新築は無理だし、施設の改修、部分的なことしか予算はとれない。じゃあこれに対して現実的な具体策はどうするのかということはやっぱり出していくことがこの計画。

きれいごとだけでいくと、これをまた何かしますという絵そらごとを書かざるを得ないんですが、もう現実的にこういう強みとか弱みを踏まえて、こういう何の策を立てるのかということところは少しずつこう出てきて、それを、優先順位などをつけながらつくっていくのが計画だと思っていただけたらと思います。両方を動きながらなので全部は聞けてないのですが、すごく興味深い、いろんな見方とか。

ここの部分にもかなり入ってきている発言をされてくださっているので、次回そのあたりを整理をしたらと思います。

時間の関係で、とりあえず今日はもう交換というのはなしで、これで1回締めたいと思います。

それで、これを整理してもらって、次までにとということでもよろしくお願いします。

○事務局

弱みと強みは考え方で同じことでも裏表があるもんな。それをどっちにしてしまうかという。

○事務局

いい面は必ずマイナス面も。

○事務局

あるということ。

(Aグループ会議終了)

(Bグループ会議開始)

○議長

書き方なのですが、例えば弱みとしてですけど、スポーツ少年団で活動している子どもたちが年々減っているとか、できるだけ一般論ではなくて、具体的に書いていただけたらと思います。

ポストイットを配るので、そこにもうどこに張れるかは関係なく、もう一般的にいいところが誇れるな、どうも気になるなというのをどんどん、まずこのポストイットに書いていただけますか。(作業中の会話あり)

そしたら、あと10分ぐらいでちょっとそれぞれ張っていただいて、それで確認する作業をお願いできますか。

それで、大体張れましたら。

作業をしていただいたもので、これはどういうこと、みたいなのをちょっと一個一個、せっかくなので見ながら、司会的に進めてもらいますか。

一応、張り終わったら、順番に大体自分が張ったものを説明をしていただけたらと思います。

○委員

見方がそうや、僕も指導者を多く育ててるのですかね、もうそれがわかりませんね。

○委員

僕も思わない、逆にね。

○事務局

でも、どちらかということ盛んになっていると思うということは、やっぱり指導者がい

るから盛んなのじゃないのかなとは思いますが。

○委員

指導者、うちにはいないけど。

○委員

別にそこまでは私、問題だとは思っていない。指導者がいても、皆さんのサービスだからみたいだね。

○委員

多少それはありますよ。これでも結構、電気を使ってるけど、ありがたがってない人もいるからね。その辺。弱みはこの辺の子どもが減っているとか、その分ゲームとかスポーツ以外にすることが多い。

○委員

何かね、これと僕、同じ。最近ね、うちらもやっぱり親子の参加が少ない。

○委員

そうなんですネ。

○委員

例えばしたいなと思っても誘い合って参加できないとか。

○委員

昔は市民運動会とか、無理やりでも参加させられて、そこにこう顔つなぎになってやってみようかみたいな感覚が昔はあったと思うんです。最近そういうのも全部、予算がないとかで切られてきて、しようと思うけどできないという人が。でも、高砂の人間は割としようやと言ったら反対しない、仕方ないなと言いながら参加してる人が多いかなと思ってるので、その辺の何かこのオリンピックなども兼ねて市民で何かしましょうとか市民運動をしましょうとか。

○委員

オリンピックは本当に追い風です。

7年後と言うたら、ちょうど今から持っていくには長くはなく短くなくでちょうどいいでしょう。

○委員

例えば、昔はラジオ体操をやってましたけども、それを無理やりもう責任で参加させてすると、体を動かすのもやっぱり楽しいなになってくる方もね、おってかな。

○委員

きっかけがない方がね、多いので、低いハードルで何か参加できるものがあれば。

○委員

そういう意味では、高砂市民は割と従順な方が多い、その気になってくれる方が。

○委員

何かをやりさえすれば、何かきっかけさえつくれば行く。

○委員

祭りのあれ、気分を持っているでしょう。やろうという、乗せられたら乗るという。

○委員

みんなが皆じゃないけどね。

○委員

ないですけどね。

でも、そこから。

○委員

祭りはね、なかなか難しい。好きな人と嫌いな人と。

○委員

祭りを推進してませんから。

でも、そういう気分。

○委員

気持ちね。

○委員

なってくれる方が多いかな。また別やもんね、祭りはね。

○委員

スポーツクラブのマイナス点というのは何か幾つか書いてますけど、これ、ちょっとどなたですか。

○委員

私、スポーツクラブね、とにかくね、1つはこれ。ぱっと入りにくい感じやね。だから、中までね、ある程度もう今で10年ぐらいたつとね、みんなね、こんなんね、もうある程度10年もするとね、固定して。

○委員

大体、人数が同じ地区も多いです、大体同じメンバーが。

○委員

地域でやってるから何かこう、ぱっと入ってきたいなという人はね、なかなか僕は入りにくいのと違うかという印象を持ってて。

だから年のうち、何回か講習してね、講習会して、初心者の方が入りやすいようにはするのですが、やっぱりなかなかね、こう固まってしまうというかね、グループができてしまう。

○委員

そうですね。

○委員

どうしてもなりますよね。

○委員

だから、なかなか難しいなど。

そのグループは非常に仲よく、例えば20人なら20人がぐっといっとなやけどね。何かそこへこう本当に全然違う人が入りにくい、何かそういうところはちょっと思います。

○委員

何か無料開放の日とかはないのですかね。やっぱり会員にならないとこう行けない。

○委員

いや、別に会員にならなくても、しばらく様子を見るので来てくださいと、自由に入ってもらってるんですよ。

○委員

それでもやっぱり行きにくいという。

○委員

それでずっと続けて来られる人もいるし、やっぱりちょっとあとは性格的な問題もあるかもしれないね。

○委員

人間関係がね。

○委員

そこでまた亀裂を発する可能性があるからね。だから、これはね、もうどんなものでも一緒に、もうあの人がおるから行かん、嫌とかね。

○委員

それはどこでもあるね。

○委員

だからなかなか難しい。

それで、逆のそういう、キャラの強い人というのは割と引っ張ってくれるんですね。だからリーダーとしてはいいのですけども、反面また難しい面もあるんですよ。だから我々、マネジメントと言うんですか、間に入って世話をしてるものからすると、そういう人も必要なんですけど、あまりその人が、キャラが立ち過ぎると、敬遠する人が出てくる。だからそこを上手にやってあげるのは我々の仕事だと思ってるのですけどね。なかなか。

○委員

あと、ゲートボールでよくけんかをしてましたよね。

○委員

だからグラウンドゴルフになったという話を聞いたんです。それはもう個人の競技で。ゲートボールって僕、ルールを知らないですけど、結構協力が必要だったりするんですよ。

○委員

そうなんです。まさにそのとおりです。

○委員

最近は全然見ないですよ。

○委員

だからね、スポーツクラブ21は、スポーツの会なんですけども、全然スポーツとは違う。餅を焼いてみんなで食べたりね、最近は行ってないですけど、バスでどこかへ行ってみたい、そういうことをやってた時期もあるんですよ。みんなのこう種目、何かいつも同じ種目で固まってしまう。だから他種目の人との交流をするために、何をしてもいいけども、どうしても同じスポーツ。グラウンドゴルフの人が来て、次、スーパードライブをするかというとならない。

○委員

そうでしょうね。同じものをやるほうが気持ちも楽ですし、やりやすい。

○委員

だから、そういう他種目の人を会わせるのにね、そういうことを年に何回かやってる。みんなでグラウンドゴルフ大会をして、ふだんしてない人も入れてやったりしてます。

○委員

今度26日に市内で集まるんでしょう。

○事務局

そうです。交流会があります。

○委員

市内のスポーツクラブ21の人が全部集まって、校区対抗みたいな感じですか。

○委員

ただね、順位を決めないからね、何かこう、このごろの風潮でね、よし悪し、順位を決めないから身が入ってるような入ってないような。

○委員

個人的には何でも順位を決めたいですけど、最下位でもいいので勝負はしたいですよ。

○委員

そんな交流会のときはね。市の大会のときはやります、順番を決めてますけどね。交流会のときは本当の交流会ですわ。

- 委員
機会のほうはオリンピックと健康志向ぐらいですかね。機会として出ているのは。
- 事務局
マラソンですね。
- 委員
高砂マラソンがあるのですが、皆さんご存じですか。
- 委員
毎年出てますね。
- 委員
ああ、そう。すごいですね。何かね、このごろマラソンブームですからね。どこの自治体もやってきてますけど。もうちょっとこうね、参加者がふえたら、今やっと去年初めて1,000人を超えたんですね。
- 委員
何かネットの募集で何人かふえたという話とか聞きましたね。
- 委員
ことしはスポーツクラブもジョギングぐらい出ようかと。
- 委員
ありがたい。300人ふえる。
- 委員
とにかくね、20代から60歳までの人というのはほとんどいない。ゼロじゃないよ、結局世話をしてる人だけなの。実際に運動してる人は子どもかお年寄り。
- 委員
本当はその間の層に・・・・・けどね。特に30代、40代の男性。
- 委員
子どもはまだ少し来てますが、それに親がついて一緒にしてくれればいいけども、親は子どもを行かせておいて自分は来ない。だから子守みたいになってしまっている。その辺、ちょっとどうなのかな。
- 委員
脅威としてはいろいろテーマが、これは実際、マイナスになるかわかんないんですけど、何かよく水につかりますよね。
- 委員
ゲームも、家から出ないね。本当やな、子どもはみんな、あんなものばかりしている、大人もこのごろはスマホですからね。もうあんなばかりして、あまり体を動かすことをしないね。指先だけで。
- 委員
それがそっちやったらこの辺がそっちやね。どっちでもええか。
- 委員
どちらでも考えられるか。
- 委員
この辺だな。
- 委員
何か子どもが公園に集まっててもやってるのがDSだったりしますからね。集まるだけ集まって公園に来て。
- 委員
確かに今、大人でもそうですけど、何かみんなすごく狭いんですよ。だから二極化。自分の周りのことはめっちゃ知ってるけど世間のことは全然知らないみたいな。

○委員

知ってるような気になってますね、いろんな情報が入ってきてますけど。むしろこう家の周りのことがよくわからないとか、隣の人と全然交流がないとか。

○委員

そうそう、世界がどうなってるかというのはこう入ってくるからね、けど、隣の人が入院しているかどうかは知らないというね、そういう問題はありますね。

○委員

高砂はね、何か施設とか、そういうのがちょっと弱いと思います。文化的にもスポーツ的にも。意見にもあったけども、ちょっと道路整備なんかがね、やっぱりできてない。結構歩いてはりますよね。朝も夜もね。

○委員

確かに、アンケートにありました、危ない、確かにね。

○委員

歩道の整備とかという話がありましたね。昔からの道が多いからやっぱりもう家が建ってるから、なかなかね。

○委員

もう即道路でね、歩道がなくて道路だからね。まだなかなか。

○委員

まだもっと前なら田んぼの周りをね、歩いてはったり走ったりしていたけど、今は安全なのは加古川の河川敷だけですもんね。

○委員

そう、あの辺ぐらいですよ。

○委員

ミムラボさんがあるというだけでも強みになるのですね、やっぱり。

○委員

僕はそう思いましたけど。世界を知ってる人ですから。

○委員

そうですね。

○委員

僕はよくわかりませんが、何か全然生かしてないのと違うの、せっかく米田にあるけど。あそこでやってるだけで、例えば何か周辺にね、何かこう影響というか、いい影響があるのかな。あるというだけで何かしよってんですかね。逆にこっちからアプローチということもしてないだろうし。

○委員

知らない人は知らない。

○委員

知っている人はものすごい。

○委員

僕は靴をつくってもらいましたけど。会社の人にも勧めたりは、そういうのはしてるんですけども、個人的ですからね、そういうのは。

○委員

この人を今回、呼ぼうかなと思っています。

○委員

高砂マラソンで毎年来てくださってますけどね。

○委員

そうなんですか。

- 委員
何の会社か知らない人も多いかな。
- 委員
箱物があることはあるけど、書いてないですね。
- 委員
何か探せばそういう人は結構いるかもしれないけど、わからないだけでね。
- 委員
その辺、市も頑張っとしてやね。
- 事務局
いろいろ教科書の1ページ目のほうから出てるぐらいの人ですから。
- 委員
ミムラボに限らず、スポーツ関連施設とか、例えば整骨院とか整体の先生とかスポーツした後は例えばこういうところがありますよとか、何かそういう冊子なんかできればね、いいかも、とっつきやすいかもしれないですけどね。体を痛めたらここに、例えば温泉がありますとか。温泉があるか、僕は知らないんですけど。
- 委員
高砂は温泉。
- 委員
昔は竜山温泉。
- 委員
ありましたね。ありましたよね。
- 事務局
もう温泉もないね。施設自体がないでしょ、銭湯があと1つか2つになったんか。
- 委員
あと、ふれあいの郷は泊まりますか。
- 事務局
いえ、泊まりません。
- 委員
もう泊まれなくなったの。
- 事務局
もうだめです。
- 委員
どこかを掘って、無理やり温泉を出したらいいじゃないですか。どこかで。
- 事務局
そらリフレッシュの湯とかね。
- 議長
もう多分こうやって見ていただくとね、ある人にとっては強みとも見える。ある人は弱みとかね、いろんな見方。
もしかしたら大企業が多いというのは強みになる可能性もあるね、ある見方からしたら。
その辺をこう総体的に、総合的に考えていく。いろいろな意味でもこの作業というのは意外とああ、こんなんがああ、そうやなとかというのをご確認いただけたらと思います。
結局、計画ってこれをどんな重みづけでね、それで実際にやっぱり外部環境の影響は大きいので、策を立てるとき。
どんどんお金をつぎ込めたらいろんなことをやれるんだけど、もうお金はない、でも

じゃあ例えば施設の老朽化って向こうでも言ってましたけど、それはもうどうしようもないじゃないですか。

多分今後はなかなか修繕なんかも、もう本当にできない。新築はまずできない。じゃあそこをどうやってキープしていくかというのは、今までの違うスタイルを何か生み出さないといけないかもしれないし、そういうふうなことがね、こう具体的に出てきたらいいかなと。

意外といつも、このさっきの人任せというのは、ここをほとんどの人、認識してないのですよ。

こっちでだから施設が古くなってるという、だからそればかり要求するから、でもできないんですよというところの認識が、みんながふえる中で、初めて何かこう現実的な策が少しはね、見えてくるかなという気がします。だから計画のところではこの辺をやっぱり折り込んで、だからこうするんですよということを書いていかないといけないと思いますね。

1つはそういうふうなこれ、地域によって、あえてそういうものを復活させようというところも現にあります。

それはでも、逆行してるじゃないのという考え方もあるじゃないですか。もう個人で個人の。

嫌だからやめていったのは、もう動員型の事業、だけどあえてそこをちょっと新しいバージョンで復活をさせていくことが必要なんじゃないですかという提案も、ちょっと勇気は要るんですが、そういうことも必要かもしれない。そのあたりの議論がね、こう具体的にできていけばいいかなと。

○委員

つまり施設が古くなっても予算的にもう改修ができない。例えば市とかね、公的のところ。それなら例えばさっき大企業が多いというのは、結構企業も体育館とか運動施設をいっぱい持ってるんです。だからそういうところをうまく、向こうとの兼ね合いもあるんですけどね、開放を例えばできる範囲でもらうとかね。それならやっぱりそういうのも新しい施設をつくらなくてもいっぱいあるのだから。なかなか企業の論理でいくと難しいのかもしれないけど。

○委員

ある程度貸してくれてますよね。

○委員

はい。カネカのグラウンドでサッカーや、フットボールなどをやっています。

○委員

子どもの、何かラグビーなどよくやっていますね。

○委員

はい、よく使ってもらってますね。僕、神戸製鋼の陸上競技場をすごい使いたいんですけどね。グラウンド、舗装された陸上競技場の、オールウェザーって言うんですけど、ウレタンのもが2レーンか3レーン、ちゃんと整備されてるんですよ。

○委員

荒井のところ。

○委員

荒井の駅からちょっと南へ下った。

○委員

ああ、そう。ありますよね。

○委員

神戸製鋼のバスがとまっている横。

- 委員
今そうなの。
- 委員
前は違ったんですか。ちょっと僕も最近しか知らないんですけども、舗装された400メートルトラックがあって。
- 事務局
企業に話をしに行ったことはあるんですけど、やっぱり福利厚生施設がね、いつでも誰でもどうぞというのがなかなか難しい。
- 委員
何かイベントのときなどは借りられる。
- 事務局
そうなんです。
だから、単発のイベントとかだったら借りやすい。
- 議長
そういう意味で、まさにフリーでは無理なんですよ。ある程度のこう。
- 委員
年に例えば2回とか3回ぐらいだったら何となく借りられそうですけどね。
- 委員
何かふだんは全然使ってないらしいですよ。
- 事務局
そうそう、よく遊んでますけども。
- 委員
だから多少何かお金を出しても何か使わせてもらえるように、こう整備代を出すから使わせてみたいな、それはやっぱり難しいんですかね、こう市と企業でそういうお金のやりとりというのは。
- 事務局
やっぱり会社の考え方もあるみたいですね。
- 委員
多分、管理のほうにお金がかかるのでしょうかね。
- 委員
そんな高くは取れませんから。
- 事務局
あとは役所も企業も一緒ですが、最終的には責任問題の話を出してくるからね。
- 委員
何かあったら困るし。
- 事務局
何かあったら困る。そういうのはどっちかと言うと消極的なほうになっていく。
- 委員
そうね。
- 委員
事故があると困るということですね。
- 事務局
だから、この辺でもやっぱりそうだろうけど、スポーツが自己管理、自己責任でという話がみんなついてれば、そういう話にはならないだろうけども、施設の瑕疵やとか管理体制の不備やとかという話になってくると。
- 委員

結局、ひっくり返って骨を折ったか、何か施設が悪いとか言ってね。

○事務局

そうですね。

○委員

自分が借りとして、何かそんな人もいるのかな。

○事務局

完全にマイナスとなってね、しかも。

○委員

使ってもらってるけどね。

○事務局

学校など特にそうかな。

○委員

やっぱりやってもらうことから感覚だと。自分からやっているとは思わないですけど。

○事務局

何にしても、少年団や子ども会にしてもそうですが、モンスターが出だすとイベントが減っていく。そんな怖くてできないという話になってしまってね、マイナスへマイナスへ足を引っ張っていく。

○委員

何か企業民対地元民の対抗戦、対抗スポーツ大会とかやってみたいですけどね。いがみ合うわけじゃないんですけども、ふだん交流がない人達で何か交流できるような。地元民で企業民の人はどっちに出てもいいとかやって。何か高砂浜風駅伝って企業対抗でやってるんですけど、企業の方だけなんです、基本的に。何か地元のチームとか普通に出てもらえばいいなと思うんですけども。

○委員

地元の消防団とか。

○事務局

多分、浜手に大手さんが複数社あるから、1社やったら結構、市といわゆる地域貢献というので1社に限定して話したら、じゃあ私のところは市にも市民にもお返ししましょうとなるけど、うちは話をするとところが多過ぎて、そこだけ話して、その辺がちょっと逆につらいところでもあるけど、だから浜風駅伝のようにまとまってきたところで市民と一緒にというのはある意味いいけどね。

○委員

民間のクラブチームは出てないのですか。

○委員

そうですね。基本、何か2つ部があって、ことしはどうだったかな、基本的には片一方はクラブチームじゃなくて、企業のチームだけで、何か来年以降はもう1つの部でクラブチーム、だから何人かいて、それで上位だった人は何か上に来られるという話だったんですけども、1人高砂市の在住か在勤の人が必要、それぐらいに緩和されてたような気はしますね。

でも、何かあまり地元の人という感じじゃなくて、やっぱり別のところからクラブチームで来ていて、たまたま1人高砂の人が入ってるとか、そういう人のほうが多かったんで、もっとう地元の人に出てもらって盛り上げるほうがいいかなとはいつも思ってますね。

○委員

意外とね、僕ら小学校の体育館や運動場を使わせてもらってるんですけどね、うちは

大体、土日が主ですけどね、平日の夜、結構うちに限らず体育館とかね、夜、結構使っているグループが多いです。

○委員

何か夜、電気がついてて声の聞こえるところがありますよね。

○委員

何か剣道とか空手とか、何かバレーボールもやっていた。

○議長

すみません、そしたら時間の関係もあるので、一旦、当初はプレゼンテーションをしようと思ったのですが、もう十分これで1回それぞれのところで置いていただいて、次にしたいと思います。

(Bグループ会議終了)

○議長

すみません、そしたらその場で顔だけ、お耳だけ向けていただけたらと思います。

当初はそれぞれAグループ、Bグループのほうでまた交流をして、それで意見交換とかいうふうにしたいのですが、もう時間も十分、それで各グループですごく建設的な、前向きないろんな話が出ていますので、まずはそれを次回までに事務局のほうで整理をしていただいて、そして今日のテープにも録っていただいているので、その中でもかなりこの真ん中の部分、この部分の話をこう出してくださっている方もいらっしゃいます。そのあたりをベースにしながら、少し具体的な方向性を示していくようなたたき台をつくって、それをベースにまた議論をしていけたらと思っています。

今後のスケジュールについての、最後、日程調整をさせていただいて終わりたいと思うのですが、先ほど事務局と打ち合わせをしましたら、この作業でちょっと整理をして、そしてまた一度資料をお配りして、それでまた持ち寄っていただくことを考えたら、12月、11月末か、早くても11月末ですね、12月の年内のどこかでということになるかと思うんですが、12月10日火曜日あたりでどうでしょうか。

それで、私も事務局と少しやりとりをして、12月の初旬には一度、11月末か初旬には資料をこう、お送りさせていただいて、そしてことしの最後の会議に有意義な、もう少し意見交換ができたというふうに思っているのですが、10日の火曜日で、もう今の時点でもうアウトという人はいらっしゃいますかね、大丈夫ですか。

この時期、忘年会とか入ってくるので、なるべく火曜日は入れないように、関係の皆さん、それぞれの長の方なので、なるべくうまく調整をしていただけたらと思います。

では、12月10日の火曜日に19時からということでお世話になれたらと思います。

それでは、議事のほうは終了ですので、事務局のほうで進行、またよろしく願います。

○事務局

それでは、最後に健康文化部長から閉会のごあいさつをお願いいたします。

○健康文化部長

どうも皆さん、こういう形で今日は有意義に過ごせたと思いますけど、非常にもう夜遅くになって長時間にわたってご苦労さまでした。

これで第2回の検討会議を終わりたいと思います。ありがとうございました。

(午後 8時50分 閉会)